



# 賀茂縣主だより

所 長  
財 団 法 人  
賀 茂 縣 主  
同 族 会

## 新年のご挨拶

理事長 西池 成晃

明けましておめでとうございます。

皆様にはご家族おそろいで、よきお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年も昨年同様のご鞭撻とご支援を賜りますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

写真にあります新年の神山の壮厳で清らかな姿を望み拝するとき心が洗われ励まされる気持ちがいいたします。

ご存知のように神山こそは古代から賀茂氏が一心に祈りを捧げた永遠不変の、将に大神様のお座します神奈備山であります。

今年も同族の皆様並びに同族会に無事と発展への神助あらんことを切に祈る次第です。

昨年をふりかえりますと、四月の役員改選後、同族会の活動目的を「カモ文化の継承」との理解のもとに諸施策を講じ、推進して参りました。即ち、祖先を祀り、神事に奉仕し、系図を保存し、さらにはカモの学芸を、学び知りこれらを伝承、充実、発展させることであり、これらは、全て、我々の先祖の方々がいつの時代にも行ってきたことであります。

家系図提出のお願い

先般お願いしました「家系図」未提出の方は至急御送り下さい。なお、親子、兄弟で会員の方についても夫々作成して下さい。  
(二頁系図名簿チームの項参照下さい)

このような伝承活動を太く永遠に持続してゆくためには同族の結束とそれを支える清く温かい心をいっそう強めることが必要と申せましょう。

そのためには会員の皆様に同族会の過去や現状を知っていただき、またチーム活動を通して共通の認識や連帯感を高めていただくことが有効かと思っております。

チーム活動においては、既存チームはそれぞれ実績を上げていますが、昨年後半から有志が集り、新たに「カモ歴史勉強チーム」を発足させ、先祖の遺した文物を繙き、自由に討論し、将に「考える賀茂史」の活動に入っております。多数のご参加をお待ちしています。

また一方、会務の面からは当財団の憲法と言うべき「寄付行為」に付帯すべき細則も体系的に作りあげて行くべく今後制定する多数の規程群の骨格となるべき総則(案)の作成をすすめています。ここに当財団の「カモ文化の継承と発展」を趣旨とするルール体系を逐次整備する端緒が開けたものと考えています。

さらに今後、情報機器の活用によりとくに遠隔地にお住まいの方々、次代を担う青年層の方々とも情報交換を容易にし全員参加型の同族会を目指したいと考えています。

最後に賀茂氏中興の祖である在実卿千年祭の計画にも思いを馳せつつご挨拶を終わります。皆様とご家族のご健勝とご多幸を祈ります。



平成十二年十月二十九日  
賀茂県主同族会祖先祭  
(敬称略)

藤木 弘直  
小田 孝一  
山本 裕司  
山本 紀博  
井関 勝博  
山本 浩久  
山本 節子  
戸田 保輝  
岡本 清紀  
市 聡顕  
浦野 邦夫

西池 隆浩  
藤木 茂  
藤木 十紫子  
藤木 文雄  
山本 敏子  
井関 美幸  
宮田 克義  
宮田 桂子  
市 和子  
蔣池 重信  
蔣池 導子  
蔣池 光子  
藤木 琢也

岡本 修  
三ツ橋 知子  
北大路みよ子  
西池 節子  
岡本 好  
岡本 武生  
山本 愛子  
浦野 賀子  
西池 三郎  
梅辻 篤子  
西池 勝太郎  
堀内 保丸  
岡本 季幸

梅辻 諄  
竹川 稔子  
堀内 睿子  
小田 晴子  
山本 ミエ  
藤木 襄治  
鳥居大路勝廣  
藤木 朝子  
藤木 保直  
山本 照子  
山本 禮太郎  
北大路 和子  
植野 文章  
藤木 和子  
藤木 伸子  
藤木 稔子  
市 忠顕  
堀川 潤  
岡本 清信

藤木 光男  
錦部 俊和 (清織)  
岡本 吉子  
山本 信吾  
山本 健太  
関目 季弘  
松田 一雄  
西池 成晃  
北大路 元顕  
太田 重明  
植野 絢子  
藤木 和子  
植野 文規

## 祖先祭講演要旨

## 『太陽のいたずらと賀茂』

梅辻 諄

幕末に活躍した梅辻規清さんは同族出身の偉才と言えます。清の一流の規清さんは三十歳頃まで賀茂にあって勉学に励み、その後江戸へ行って、賀茂神道の大家版「烏伝神道」の布教に邁進します。多くの賛同者と信者を得て、布教は成功に見えたのですが、彼が天保六年に江戸を離れて東北地方に旅行した時から事情は一変します。当時、東北地方は世にも凄まじく悲惨な天保飢饉の中にありました。気候が寒くて農作物が数年間続けて全滅したことも原因ですが、その五十年前にも天明飢饉があつて人口の三割が餓死する悲惨な出来事があつたのに、その教訓が全く生かされていない体制のあり方に規清さんは激怒します。こんな事を許すのは上御一人の責任だと、彼は天皇を非難しました。言説穏やかならずとして徳川幕府は規清さんを八丈島へ島流しにしました。彼はその境遇にもめげず、島民に烏伝神道の布教を続け、ま

た、島民への教育と著作に専心しました。本土の信者には手紙で信仰を指導しました。彼は赦免を待たずに島で亡くなりましたが、その教義は弟子により神習教の中に引き継がれています。

規清さんを激怒させた天保飢饉はその前の天明飢饉と共に世界的な寒冷化の結果であつたことが、南極観測で行っている氷床ボーリングで採取した古い昔の氷の分析で明らかになりました。

江戸時代は日本歴史の中でも最も寒さが厳しい期間で、天明と天保はその中心的な寒さの時代でした。そして、この寒冷化の時代に太陽の黒点の数が異常に減少していたことが放射性炭素やベリリウムの分析から分かりました。

規清さんを激怒させた元凶は太陽の黒点（八咫鳥）の仕業のようです。

先日、知人を通じ、規清さんの子孫と名乗る島の方から連絡あり、先ずはめでたし。

## 『梅辻氏紹介』

毎年祖先祭には「賀茂」に関係する講演を諸先生方にお願ひして来て居りますが今年と同族会会員であり現在同族会評議員をお願ひしております梅

辻 諄氏に「太陽のいたずらと賀茂」と題して講演をお願ひ致しました。

天文学者である梅辻さんは「久」の一流で現在は大阪経済大学教授として太陽物理学の教鞭をとつておられ、又宇宙科学・太陽学について京都大学、佛敎大学、奈良敎育大学に於て講義をなさるかたわら日本学術会議専門委員、兵庫県立西播磨天文台運営委員及び堺市科学センターの顧問として活躍される等大変忙しいなかを同族会役員としての会の発展の為盡力を頂いてる方であります。

## チーム活動報告

## 系図・名簿チーム

松田 一雄

平成九年八月「賀茂県主同族会会員名簿」（以下「会員名簿」と云う。）この会員名簿の内容変更討議に際し会員加入資格基準を見直してはとの意見があり以後当チーム、合同事務局、評議員会及び理事会の議を経て、平成十一年十月「賀茂県主同族会会員資格基準」（以下「資格基準」と云う）を制定し、平成十一年の祖先祭に於て会員の皆様に、

欠席の方は後日郵送にて御知らせ致しました。なお、資格基準については同族会だより第四号五頁を御覧下さい。

その結果「新規加入申請書」により新規加入を募つた処、平成十一年度、十二年度中に三十二名の加入がありました。又、平成十二年十一月には死亡会員の配偶者を子の無い時に限り申請により一代限りの会員として加入を認める事と致しました。

今後の作業として、先日お願ひ致しました「家系図提出のお願ひ」により会員の皆様方から提出される「家系図」の完成に努力致したく思っております。この事業は会員の皆様方の積極的な御協力がなければ完成致しません。よろしくお願ひ致します。

なお、前記の「新規加入申請書」様式と今回の「家系図」様式とは異なっておりますので、新規加入の方も含めて全会員が御提出頂く様重ねてお願ひ致します。

会員名簿は毎年祖先祭当日に配付致しておりますが、異動、変更等が生じた時は、その都度名簿一枚目の裏の見本ご参照のうえ御通知下さるようお願い致します。

## 加茂社参拝記

関東グループ 堀内 保丸

賀茂縣主同族会関東グループでは平成十二年四月十日、春の行事として、埼玉県宮原の加茂神社に参拝しました。当日、氏子役員の飯塚芳郎氏のお世話で拝殿を開けて頂き、社務所で神社の由来等のお話を承わり、茶菓までのおもてなしを頂きまして感謝致しました。

参加者は十名でしたが、「競べ馬」の彫刻などに感心しつつ、遠い武蔵野にも別雷神が祀られている事に感銘を受けました。

「風土記稿」によれば、「当地は昔より加茂社の建る地なれば、ただちに村名とす」とあり、創建年代不詳ながら、「成田分限帳」に「三十六貫文武州宮多門兵衛」とあり、山城國一の宮賀茂別雷神社を勧請したものととの事です。又江戸期の浮世絵師溪斎英泉の「木曾街道上尾宿」には、緑深い森の中から、「加茂大明神」の幟旗のぼりはたが掲げられています。社に残る伝説では加賀の堀田丹波守参勤交代のため中山道通行の途次、妻女がにわかに産気づき、当社に祈願したところたちどころに産気が治まり、国元で無事男子の出生をみる、とあり、爾後丹波守の尊崇篤しとのこと等が記

されています

その後近隣各社の合祀があり、現在は、伊弉諾命・伊弉冉命・倉稻魂命うがのみたまのみこと・菅原道實公をお祀りし、摂社は稲荷社です。

当地では主祭神の別雷神は、五穀豊穡と子孫繁栄の神として崇められているとの事です。

注目すべきは年間祭事のうち、十月四・五日



撮影 横浜市在住 岡本 英利氏

に「お日待」があり 四日夕方から加茂囃子連が神楽奉納の後同好会による踊り・歌・詩吟があるとのこと。思うにこれは朝日を拝む神事の前準備として、日本人源流の祭りでしょう。

(加茂神社は高崎線で大宮の次の駅宮原から徒歩七分です。急行は不可)